



発行 小野友五郎を伝えてゆく会
 事務局 〒309-1626
 茨城県笠間市下市毛222の5
 TEL 0296-72-5104 FAX0296-72-5115
 H P https://tomogorou.com
 Eメール tomo56@eco.ocn.ne.jp

笠間の友五郎から
日本の友五郎へ

- ◆ 小野友五郎伝
- ◆ 友五郎の足跡を訪ねて 塩づくり
- ◆ トピックス
- ◆ 事務局だより
- ◆ 編集後記



算額は江戸時代に発達した和算(数学)の問題、答えの出し方を絵や漢文で記した絵馬で、和算家が神社や

香取小原神社で算額見学会
 11月開催のメイン行事が決まったことを受け、講演会やワークショップを担う関係者や役員で、6月19日、光又柳見齋とその門人が香取小原神社(笠間市小原)に奉納した算額を見学しました。

香取小原神社で算額見学会



事前事業
相次ぎ開催

小野友五郎を伝えてゆく会は本年度の主要事業として、11月1日に「笠間の和算家 小野友五郎と光又柳見齋」と題して講演会やワークショップを開催します。会場は笠間市小原の市立大原小学校。子供たちも参加して数学家でもあった友五郎や笠間に関わりの深い和算の歴史を見て、学んで楽しく体験しようという企画です。香取小原神社にある算額の見学もあります。

11月に講演会やワークショップ

大原小で和算授業
 メイン会場となる大原小(大関律子校長)で9月4、5日の2日

寺院に奉納したもの。同神社の算額は縦3尺、横5尺の板額で、算間が25題記され、昭和2(1927)年に奉納されました。
 光又柳見齋は慶応2(1866)年、小原生まれ、若い時から和算を熱心に学び、「昭和の和算家」として名を残しています。

寺院に奉納したもの

今泉寛会長

今年5月に開いた伝えてゆく会の総会で、本年度事業や予算案などが承認されたほか、長年、会運営に尽力してきた杉田捷機会長が顧問となり、新会長に今泉寛副会長が就任しました。

見学会には群馬や神奈川の和算研究会の会員らが参加し、飯田義之宮司の案内で見聞を深めました。
 ほか、郷土の誇りである小野友五郎や光又柳見齋の活躍を紹介しました。
 児童らは11月のメイン行事にも参加することになっています。



江戸時代に盛んに行われて和算と現代の算数との違いや当時の寺子屋、教科書などを取り上げ、児童たちに分かりやすく和算を解説。実際に和算に挑戦した

小野友五郎伝 6

杉田 捷機



米国から帰国した翌年の1861(文久元)年12月、小野友五郎は咸臨丸に艦長として乗り込み、小笠原群島に向かいました。

■小笠原群島の地図作製

当時の小笠原は、米英の捕鯨の基地となっていました。鯨を捕獲し、皮下脂肪から鯨油を取っていたのです。幕府は、中浜万次郎らの建言を受け捕鯨の重要性を認め、小笠原に進出するため、友五郎に群島の測量調査を命じました。

2カ月半にわたり父島、母島の实地踏査が行われ、小笠原群島の正確な地図と海図が出来上がりました。測量図作製では、友五郎が測量に携わり、絵図師兼医師として派遣された宮本元道が図繪

を完成させています。小笠原群島

図は、領土としては伊能忠敬の日本輿地図以来の新測図となります。この実測図

は日本の領有地確認に大きな役割を果たし、現在、国立公文書館にあります。

米国では、ペンシルベニア州で石油が発見されて以来、次第に捕鯨事業は衰退していき

ました。友五郎はこの時期、海軍の拡充と海上防備を唱えており、国産蒸気艦の必要性を幕府へ建言しています。友五郎の熱心な働き掛けもあり幕府は正式



ストーンウォール号

に建造を許可。友五郎が基本設計、咸臨丸の機関長だった肥田浜五郎が機関部を担当し、水戸藩の石川島造船所で事業は進められ、5年後の1867(慶応3)年、わが国初の蒸気艦千代田型は完成しました。ただ造られたのはこの1隻のみでした。

■軍艦購入のため再び米国へ

1867年1月、友五郎を正使とする小野使節団が米国に派遣されました。幕府海軍の強化のため、南北戦争終了直後の米国で余剰軍艦を購入するのが目的でした。副使に松本寿太夫、外国方に福沢諭吉、通弁に津田仙弥と尺振

八、海軍方に小笠原賢蔵と岩田平作、勘定方に神野信之丞など10人で構成され、太平洋郵船のコロラド号で横浜からパナマ経由で3月19日にワシントンに到着しま

した。

ワシントンでは旧知のブルック大尉の協力を得て、ワシントン海軍工廠(こうしょう)にあった装甲艦ストーンウォールや7連発のスペンサー銃1000丁、その他兵器類を購入しています。アンドリユー・ジョンソン大統領とホワイトハウスで謁見(えつけん)し、数日後には南北戦争の英雄グラント將軍(18代大統領)がホテルを訪れ、会見しています。使節団は6月26日、横浜に帰港しました。

しかし帰国すると幕府は崩壊へと突き進んでいきました。江戸湾では榎本武揚率いる幕府艦隊と新政府艦隊がにらみ合い、友五郎が購入してきた装甲艦ストーンウォールは、局外中立を盾に米国はどちらにも引き渡さず、1869年2月9日に局外中立が解かれた後、皮肉にも明治新政府の艦隊へ引き渡されました。船名を甲鉄と変えて函館戦争、日清戦争では東艦として活躍した軍艦です。(つづく)

塩づくり

井坂 幸雄

小野友五郎の戒名は「観月院殿 塩翁広胖居士」。製塩事業に尽力した証ともいえる「塩」の一文

字が入っています。高い数

学能力を生か

し財政、天文、

設計、測量な

ど多岐にわた

る活躍を見せ

た友五郎の生

涯の中で、明

治以降、特に

力を注いだのは良質な塩の製造と

普及でした。咸臨丸で渡米した

際、白く品質の高い米国の塩に感

銘を受けたとされ、塩作りへの思



行徳の常夜灯 市川市本行徳

いはこの当時から育まれてきたの
かもしれません。

友五郎が笠間を出て赴任した江

戸の笠間藩下屋敷は深川の小名木

川沿いにありました。小名木川は

行徳(千葉県)の塩を江戸に運ぶ

ため開削された運河で、川の案内

板にも「塩の道」と記されています。

妻津多の出身地は、上総国八

幡村で現在の千葉県市原市にあ

たり、古くから塩の産地があった地

域です。江戸に赴任した当時から

友五郎は塩と浅からぬ縁がありま

した。

友五郎の足跡を訪ねて

維新となった1869(明治

2)年、友五郎は行徳の塩浜でひ

そかに枝条架製塩の実験を始めま

す。わが国の食塩は粗製で、衛生

上も改善の必要があったことから

製塩の改良へと乗り出したので

す。翌年からは市原郡松ヶ島村(市

原市)で、75(明治8)年には大

堀村(富津市)で村有地8000



海岸線に建つプラントの内陸側に、
かつては塩田が広がっていた=富津市大堀

坪を借り受け、大規模な製塩場の

建設を進めました。大堀製塩場は

80年に操業を始め、良質な塩の生

産という思いは実を結びつつあり

ました。

かつては多くの干潟や塩田が

あった東京湾は埋め立てが進み、
近代的な港やプラントが立ち並ん
でいる所が多く、友五郎ゆかりの
行徳、松ヶ島、大堀にも塩づくり
の痕跡は見当たりません。古くか
ら塩の一大産地だった行徳には、
船が行き交った旧江戸川沿いの船
着き場に1812(文化9)年に
建てられた常夜灯市指定文化財
Ⅱがあり、水運の歴史を記してい
ます。

1881(明治14)年、東京・

上野公園で開かれた第二回内国勸

業博覧会で、友五郎が出品した枝

条架式による塩は、審査員から「色

純白にして雪をあざむき、いかな

る貴賓の饗宴にだしても恥ずるこ

となし」と評され褒賞を受けまし

た。98(明治31)年には製塩改良

に尽くした功績により緑綬褒章を

受けています。

大堀製塩場は創業した年に暴風

雨で壊滅的な打撃を受けるなど、

友五郎は挫折と試行錯誤を繰り返

しながら、製塩とその品質改良に

努め、地域普及にも尽くした維新

後30年に及ぶ塩づくり人生でした。

幕末明治の偉人に焦点

7月、矢祭町で歴史講演会

勝海舟や小野友五郎らとともに咸臨丸で渡米した吉岡良太夫の出身地、福島県矢祭町で7月27日、



歴史講演会と咸臨丸子孫の会のメンバーによるパネルディスカッションが開かれました。訪れた市民や歴史愛好家ら

150人が幕末、明治期の激動の時代を駆け抜けた偉人たちやその子孫たちの話に耳を傾けました。

昭和女子大学講師の遠藤由紀子さんがまず「幕末明治期に海外を経験した豪傑たち」をテーマに講演し、日米修好通商条約の批准書交換のため派遣された万延元年遣米使節の小栗忠順や同行した咸臨

丸の吉岡、文久遣欧使節団の松平康直、岩倉使節団の津田梅子などを取り上げ、彼らの生き方や海外で得た知識、経験をもとに新たな時代の先駆けとなった活躍ぶりを語りました。この中で、遠藤さんは「歴史を学ぶとは、未来を考えること、そして、未来への活力を得ることである。海外を経験した豪傑たちから得たことは、『眼界を広く持て!』（視点を広く、物事を考える）『揺るぎない志操を持て!』（周りに流されることなく、確かな自分を持つ）である」と強調しました。

パネルディスカッションには、昨年10月に笠間稲荷神社で当会が開催した咸臨丸サミットでも登壇した子孫の会メンバーの高山みな子（勝海舟の玄孫）、小林賢吾（浜口興右衛門の曾孫）、宗像信子（木村喜毅の玄孫）、小野孝太郎（小野友五郎の玄孫）、榎本隆一郎（榎本武揚の玄孫）の5氏と佐川正一郎矢祭町長が幕末や現代に通じる足跡を語り合いました。

小野友五郎を伝えてゆく会
新たな役員体制決まる

5月30日に開かれた小野友五郎を伝えてゆく会の総会で、今後の会の運営に携わる新しい役員体制が承認されました。新任では会長に今泉寛氏、顧問に杉田捷機氏が就任したほか、新たな副会長に事務局を務めていた井坂幸雄氏、新理事に笠間工芸の丘代表取締役の梅原尚美氏、光照寺住職の土肥真氏が就任しました。

新役員体制は左記の通りです。

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 会 長 | 今泉 寛 |
| 副会長 | 菅原一彦 井坂幸雄 |
| 事務局長 | 石崎文夫 |
| 会 計 | 鈴木正平 |
| 理 事 | 和田芳武 鈴木誉志男
小松崎衛 友常千秋
梅原尚美 土肥 真 |
| 監 事 | 新名喜久夫 山口一樹 |
| 顧 問 | 山口伸樹 埴 東男
南 秀利 杉田捷機 |
| 名誉会員 | 鳴海 風 岩瀬 光
相澤清晴 湊 正雄 |

編集後記

小野友五郎、勝海舟、福沢諭吉は、立場は違えど咸臨丸で同じ釜の飯を食った。同期の桜である。持ち前の高い能力で花を咲かせ、江戸城無血開城の勝、慶應義塾の福沢と名を残す。友五郎だけは影が薄い。なぜだろうか。政治家の勝と学者の福沢はその道のストライカー、技術官僚の友五郎は組織や社会への貢献を旨とし、サッカーで言えばトップ下で力を尽くした。華やかな桜より、春告げる梅花の薫り、これもまた良し。(井)

会員募集中

本会の趣旨にご賛同くださいます個人、法人及び団体の皆様のご入会をお待ちしています。

下記アドレスまたはQRコードより、ホームページ「入会のご案内」をご覧ください。



<https://tomogorou.com>